

第6回 第2分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所 第2分庁舎 1階 1-⑦、1-④会議室
日 時	平成17年9月10日 午前10時00分～午後12時20分	記録者	【学生補助員】 田中 長島
		責任者	区事務局（青柳）
会議出席者： 47名 傍聴者 0名 （区民委員： 41名 学識委員： 2名 事務局： 4名 ）			
■配付資料 1. 資料1 第5回会議概要 2. 資料2 第2分科会 テーマ「介護」についての議論の整理 3. 資料3 「地域で健康で生き生きと暮らせる街」 4. 新宿まちづくり学講座 第3回 5. 第2分科会 次回開催のお知らせ			
■進行内容 1. 開会 2. 前回までの整理 3. グループ討議 4. 全体討議 5. 閉会			
■会議内容 【発言者】●：区民委員 ◎：学識委員 ○：区事務局 1 開会 ○：これより第2分科会第6回を行います。 2 前回までの整理 ○：本日は、前回まで検討していた「介護」について第2分科会としていったん整理することになっています。 まず、これまでの議論を成富先生と岩崎先生に資料2、資料3という形でまとめていただきました。成富先生と岩崎先生にまずこれらの資料について30分程度説明をいただきます。 そのあと30分程度グループ討議をした後1時間ほど全員で全体討議をしていきます。			
(1) 資料3説明			

◎：これまでの第2分科会の議論を基に、提言をイメージしてまとめてみました。

資料3の1枚目を見てください。まず、理念として「地域で健康で生き生きと暮らせる街」を掲げ、その理念の実現のために2つの目標を掲げました。一つ目が「地域の交流」、二つ目が「健康の増進」です。

「地域の交流」ですが、①現状として、「地域とのつながりが希薄化してきている」ため、②課題として「地域とのつながりを持てるような仕組みづくりが必要」になってきています。③理由としては「介護していることを隠したりするのではなく、地域の中で気軽に情報交換や交流ができる『あたたかな地域づくり』」がもともとめられている。④具体的な解決策として、現在社会福祉協議会が中心に進めている「見守り・声かけ活動のネットワーク」のような活動を新宿区全体に展開していくようなことが考えられます。そのために私たちができるのは、一番最後に挙げたように、まずは「地域の中で一人ひとりの区民が日常的なあいさつやご近所づき合いが自然にできるような関係づくりから始めて時間をかけて始めていくことが大切ではないかと整理してみました。

2枚目は二つ目の目標「健康の増進」について整理しています。「健康の増進」への取り組みについては、個人レベル、自治体レベルの二つに整理してみました。

まず、「個人として各自が日常生活から生活習慣病や、転倒・骨折しないよう気をつけること」が、自治体レベルでは「健康診断や健康管理の体制、安価で気軽にチェックできる場や仕組み」を整備していくという課題があります。

さらにもう一步進めて、年をとるといふことや、介護が必要になるということが具体的にどういふことなのかをしっかりと理解し、正しい知識を得られる学習会を定期的に開催することで、健康予防だけでなく、介護について学習を深めていくことが求められると思います。

また、身体だけでなく、心の健康、生きがいについても大事な課題です。

生きがいについては、次回以降の課題でもあり、説明は簡単にしますが、ひとそれぞれ違っているということ、男性のためのたまり場をつくるといった課題が議論の中からだされています。

次の3ページには、条件整備ということで、拠点と情報に関して整理してあります。皆さんからたくさんの意見があった廃校になった学校を活用による寝たきり老人を寝かせきり老人にしないための地域支援も挙げられました。

また拠点だけでなく、情報に関しての整備の重要性が多く意見として出されています。②で述べたように、議論の中で「こういったサービスがあれば」という話が出ると、実はすでに区がサービスを行っているということが多々あった。これから10年後には、区だけではなく、NPOや民間事業者とたくさんのところから介護サービスが提供されていく。知らないことで、サービス利用ができないのは問題である。これらを十分に活用できるよう、情報を一元に管理して必要な肩に周知していくシステムの開発について多くの意見がでています。この点については、区の果たす役割、住民の果たす役割につ

いてさらに議論を深める必要があると思われます。

さらに、情報提供方法については、広報紙、インターネットでは情報を受け取れない高齢者が多いので、情報誌等様々な手段を考慮していくべきという意見もでていました。

また、情報周知の資源では、町会も話題となりました。これは新しい住民が入っていないという問題もあります。活動しやすい、参加しやすい組織、仕組みづくりを考慮していかなければならないと思われます。

介護そのものの問題についてですが、3ページ後半からふれています。この点についてももう少し皆さんでつめていただきたいと思います。

まず、「介護力の向上」と言う点から、「当事者」・「家族介護者」・「サービス提供者」の3者の視点から考えました。

「当事者」については、やはりまず介護についての情報収集、学習が必要となってくると思う。

「家族介護者」についての課題は、情報とともに介護技術の向上のための教育と、介護を続けていることから精神的に疲労していくことに対するメンタルな部分でのサポート、相談業務の充実があります。

「サービス提供者」については、要介護者、利用者の尊厳を尊重したサービスの提供、また介護事故が起きないような仕組みづくりが必要です。

また、その他の点として、②に要介護者本人の望む介護と家族の望む介護に差があるという実態があり、この調整について、専門職が担っていかなければならないという点があります。

⑥に挙げましたがサービス提供者の質の向上と言う点では、4ページの図のようなものが考えられます。

⑦ですが、必要なときに必要なサービスが受けられるように整備を推進していくことが課題としてあげられていました。

これら課題に対する対応については、行政だけに任せるのではなく、地域や民間との協働で担っていく必要がありますが、この点についてももう少し議論を深めていく必要があると思います

6ページ目にこれまでの議論を図としてまとめてあります。

こういった点をベースに皆さんで本日もう少し議論してください。

(資料2)

◎：提言にあたっては、第2分科会として、どう考えているかを素直に出していきたいと思います。一般論としてではなく、皆さんが新宿で暮らしていてどう考えるのか、新宿区ならではという面が出せればよいと思っています。

資料2は、最終ページに記したとおり、これまで会議記録、提言シートでの発言、提案をもとに整理したもので、具体的な意見を取りあげています。この表をもとに、各項目で足りない点をさらに追加していけばよいと思います。

大きく「個人的」レベル、「地域」レベルと、環境的な要因「公的な施策、制度」の3つのレベルで整理しています。

左側に問題点、課題、右側に対応する解決策、改善点ということで整理しましたが、項目によってはいっしょになっているものもあります。

まず、個人的要因に関しては整理したものについてです。

たくさんの方から、10年経っても「一人暮らしでも在宅で頑張る」とか「病気にならず生き生きと暮らす」という意見がでていました。この希望を実現するためには、もちろん自分自身の努力が大事で、たくさんの方の提案がでていました。

また、元気であれば、さまざまな活動への参加意欲が高まっていきます。

介護に関しては、まず自身が「介護を受けることへの意識」についての指摘がありました。

また、「介護者が抱える問題」については、精神面に関するケアについての提言が多くありました。

今回整理していくと、「地域でどうするのか」という項目が非常に多かった。

「地域でのたまり場作り」、高齢者が気軽に近くで楽しめる場所に対する要望が非常に多かった。

「近隣の人間関係作り」、これはまさに新宿の状況をよく反映していると感じたが、新しく入ってきた人とあいさつもできない環境にあるという指摘があった。

「自分の力を地域に役立てる」という点については、具体的に障害者や高齢者の力を地域への貢献に結びつけるという意見が出ていました。

大変興味深い点ですが、「知的好奇心を満たすシステム作り」とも言うべき指摘があります。特に男性の方から自分の夢をかなえるような、退職者の起業を支援するシステムや市民カレッジの創設などが項目として挙げられました。

「地域の施設利用における問題点」として、ことぶき館等について、かなり厳しいご指摘や、施設利用の改善についてのご意見が上がっています。

学校施設の活用についてもご意見が多く、こういった点については提言の中で触れていくべきものではないでしょうか。

「町会の問題点」についてはかなり議論が持ち上がっていますね。現在、新宿区では区民の55%程度しか加入率がなく、さまざまな問題点が指摘されています。地域での取組みを考える際には「町会」というのは重要な要因ではないでしょうか。

「公的な施策、制度的サービス」という点については、「健康」に対する関心が高いという点から多くの指摘があり、例えば、健康診断のあり方もずいぶん話題に上りました。気軽に健康チェックできる場所が身近にあることが求められていると思います。

介護施設の問題点についても、数は多くありませんが指摘があり、重要な点であると思います。区内の介護施設の現況、新宿ならではのメリット・デメリットきちんと把握した上で、問題点を指摘していく必要があると思います。

介護サービスの改善については、多くの指摘がありました。

現行の介護保険制度について、具体的にはケアマネジャーにおいては、ケアマネジャーが事業者に属してしまっているため利益優先にならざるを得ないことや、質が均一でないことが問題点として挙げられました。制度などの仕組みについては公的な問題であり、区の方でも考える必要があるかと思えます。

「その他」の項目として、重要と思われる点について整理して見ましたので、ごらんください。

また「情報」に関してですが、広報紙とインターネットだけでおしまいということではありません。町会や掲示板も情報源となっているという指摘もありました。重要な点ですのでさらに検討する必要があるのではないのでしょうか。

「むらさき手帳」ですが、こういった制度を復活させるということではなく、民生委員の方が、地区内の高齢者と接触する手段として利用していたが、現在は接触する手法がないという指摘です。まさに、新宿の課題であり、地域の方々が活動する際に、どのように高齢者の方と接触していくか、その手段を考えることも重要なことだと思っています。

これまでの議論を整理して見ると、かならずしも「介護」だけではなく、これから検討するテーマである「生きがい」や「バリアフリー」との関連が強いものもありました。また、今後の検討の中で「介護」に関する議論も出てくると思います。とりあえず現時点でのまとめということで考えてください。

3. グループ討議

◎：これから、2人の整理をもとに、「介護」について提言にむけて足りないと思われる部分や、さらに議論を深める必要がある点について議論してください。

◎：それではグループで「介護」に関してまとめの議論をおこなってください。

(各班に別れてグループ討議)

4 全体討議

◎：それでは、グループごとの検討について発表してください。

発表要旨

< 1班 >

介護サービスの仕方

サービス情報等掲示板を活用する

廃校を利用した各種事業

(世代間交流→生きがい)

作品の展示販売も含む

高齢者（障害者）に配慮した交通

無料の検診

元気館の運営の意見交換会等の開催

< 2班 >

緊急通報システムを運営できる条件づくりとしての地域交流

↓

新宿区独自で介護保険の上積み・横出し

拠点の原点としてのベンチ

交流が活発化するための高齢者

事業者への情報提供

特養1, 200人待ちの改善策として小規模施設づくりを推進する。

団地の活性化を図るしかけづくり

精神障害者の就労支援

< 3班 >

シルバー人材センターの活用

3世帯家族に対する助けあい

介護者を大切にすることを強調

「いつでも誰でも入れる施設」の文言を入れる！

無料化の促進、値上げ（保険料）をしないで改善する介護保険制度

= 予防策の強化

情報：新宿区独自のケーブルテレビを活用したような仕組み（要望）

高齢者に携帯電話を無料配布する（利用料は個人払い）

教育関係とも連携して考える。

ことぶき館の廃止 = 高齢者施策はどうなる！

< 4班 >

むらさき手帳が民生委員の交流の術の一つになっていた。

社協の見守りネットワークの情報掲示板・回覧板の活用

いきがい館の改善はすぐに！

健康促進事業の充実

家族会等のつながり（横の連携）

学校の空き教室活用

< 5 班 >

経済的湯祖を見逃してはいけない

事業運営における利用者の資産面の調査をしっかりとる。

自助努力をしっかりと根づかせる。

利用者の状況に即した利用料補助制度の必要性

< 6 班 >

1 要介護にならない方法

生活習慣病の原因を解明する

2 外での活動（安価なもの）

3 外にでる活動への呼びかけ

4 多世代同居推進 多世代住居・施設の要望（擬似家族など）

5 デイケア・リハビリメニューの強化（本人が望むもの）

6 専門家によるサービス

7 講座などのメニュー増加

8 広報「しんじゅく」が全ての人に届く仕組み

9 ボランティア活動や行事の推進

（介護）

1 支援者を中心としたネットワークの推進

2 介護者の勉強会

3 病院の改善（3か月入院）

4 認知症の方が利用できる施設

5 サービスの整備

6 家族介護者への支援

7 音声による情報提供

8 多世代の交流

9 情報

◎：この他にご意見があればどうぞ。

その他発言要旨

●：要介護認定では、家族・家屋等の状況をしっかりと把握して欲しい

●：グループホームを推進してもらいたい

●：高層マンション等の新規の自治会と、既存の町会・自治会の連携と、これに対する行政側の支援を

5 まとめ

◎：これまでいろいろと議論していただきましたが、「介護」に関しては一応本日で終了ということになります

◎：まだまだこんなに意見がでるとは思っていませんでした。

意見の中身としては、これまで議論してきたことを明確にするものや、区への要望・期待というものが多かったように思います。ただ、この分科会では、区だけではなく区民の皆さん自身で今後の新宿区がどうあるべきかを考えていくためのものですので、ただ要望を出すだけでなく、どう取り組んでいくべきかという点にも配慮して提言していくものだと考えていますので、まとめ方に工夫が必要だと感じました。

いくつか気がついた点について指摘しますが、まず「認知症」に関する意見が多かったように思います。やはり皆さんの関心が高い点だと思います。

また、新宿区の特色である、マンションに暮らしている方が多い、77%程度であると聞いていますが、これらの方が地域にどのように溶け込んでいくかについて具体的なアプローチも考えなければいけないと感じました。

また改めて皆さんに整理したものをお出ししたいと思います。

6 次回以降のテーマについて

◎：次回からは「生きがい」をテーマに検討していきます。

「生きがい」といっても、そのイメージは人によっていろいろあります。この検討会において検討する内容をある程度統一したいと思います。

それは「生活の質をいかに高めていくか」ということです。人それぞれ状況や思いは異なっていますが、それぞれの状況において、暮らしをいかにいいものにするか、そのために必要なことは何かを考えて生きたいと思います。

具体的な例に基づかないで議論すると漫然としたものになってしまうので、次回、それぞれ1つでも2つでも具体的な活動例、地域で、個人で、新聞で等、例を見つけて持ち寄ってください。

<次回日程>

・9月28日(水) 午後2時～

新宿区役所 第2分庁舎 2階 2-①会議室